



主要な農作物の生育情報

平成22年度 第10号

(平成23年1月11日)

福島県農林水産部研究技術室



【野菜】

1 イチゴ

県北地方では、現在、促成栽培（夜冷育苗）が頂果房の収穫後半、1次えき花房が開花期から肥大期にあります。促成栽培（ポット育苗）は、頂果房が収穫中で1次えき花房が開花期となっています。いずれも収穫量は増加してきていますが、生育は平年と比べ7日程度遅れ、1次えき花房の生育にばらつきが見られます。

いわき地方の促成栽培（ポット育苗）は、現在、頂果房が収穫中で1次えき花房が開花期となっています。生育は平年と比べ5日程度遅れ、1次えき花房の生育にばらつきが見られます。

病害虫では両地方で、うどんこ病、コナジラミ類の発生が見られます。

2 ニラ

県北地方の2年株は、3番刈りの収穫がほぼ終了し、12月上旬より被覆を開始した1年株の出荷始めとなっています。株養成期の高温・乾燥の影響で、葉幅がやや狭い傾向にあります。

須賀川地方では、2年株は3番刈りが収穫中、11月上旬に被覆開始した1年株が2番刈り収穫中となっています。高温・乾燥の影響で、葉幅がやや狭い傾向にあります。また、病害では、白斑葉枯病が散見されます。

3 シュンギク

県北地方のハウス栽培は、10月上旬定植の圃場で2次側枝を収穫中です。害虫ではハモグリバエ等の発生が見られます。

相双地方のハウス栽培は、10月上旬定植の圃場で2～3次側枝の収穫中で、生育は平年に比べて7日程度遅れています。

4 秋冬どりブロッコリー

相双地方での収穫盛期は、定植時の高温・乾燥の影響から生育にばらつきが見られ、11月下旬からとなりました。寒さによる花蕾肥大の遅れもあり、収穫は1月末まで続く見込みです。

【花き】

1 花木類

県中地方におけるサクラの生育は、猛暑の影響等で早期落葉する樹が多かったものの、枝振りは概ね前年並みです。東海桜の年内出荷は、前年より3日早い12月22日から始まりしました。

梅の出荷は、終盤を迎えており、出荷量は前年並みです。

2 キク

県北地方の8月咲品種キク類の親株は、11月にハウス内に移植されており、生育は順調です。1月上旬からトンネル被覆を行い、親株の芽出し管理が始まります。

病虫害の発生状況や防除情報については、病虫害発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部研究技術室 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyukaihatu/gijyutsufukyu/seiikugijyutsujyohou.html>